

下鴨神社だより

4月29日 市民植樹祭 (午前9時～)  
5月3日 流鏝馬神事 (午後1時～)



5月12日 御蔭祭 (午前9時～)  
5月15日 賀茂祭／葵祭 (午前11時40分～)  
6月9日 螢火の茶会 (午後5時～)  
7月26日～29日 みたらし祭 (午前5時半～)  
8月6日 矢取り神事 (午後6時半～)  
9月30日 名月管絃祭 (午後6時半～)

事務局だより

会議報告

平成23年10月1日より平成24年3月31日まで  
第5回理事会  
月日：平成24年3月6日  
場所：主たる事務所  
出席：理事・監事  
決議事項…

- ① 自平成24年4月1日至平成25年3月31日 事業計画及び収支予算書の件
- ② 助成事業準備資金積立ての件
- ③ 国宝本殿2棟修理及び周辺整備助成事業 準備資金取扱要領の件
- ④ 国宝本殿2棟修理及び周辺整備助成事業 準備資金積立ての件
- ⑤ 資金調達及び設備投資の見込みの件

報告事項…  
① 自平成23年5月31日至平成24年3月5日の理事長および専務理事の職務執行の報告

② 会員数の報告

会員数報告

(平成24年2月10日現在)

賛助会員	52件
団体・法人会員	33件
個人会員	1,242名
合計	1,307件

平成24年度会員証および特典パンフレット

平成24年度の会員証は6月下旬にお届けいたします。平成23年度会員証は6月30日まで有効ですのでご利用いただけます。

新入会員ご誘致のお願い

多くの方に世界遺産紘の森の保存にご理解ご協力をいただきたく願っております。新入会員のご誘致をよろしく願いたします。同封の「入会案内パンフレット」をご利用ください。

ご寄付のお願い

平成23年度も多くの皆様にご寄付をいただき、紘の森の整備・神社建造物の修復を実施することができました。ありがとうございました。平成24年度も引き続きましてご寄付をよろしく願いたします。同封の振込用紙をご利用ください。



題字  
賀茂御祖神社  
新木直人宮司

編集・発行

公益財団法人  
世界遺産賀茂御祖神社境内紘の森保存会事務局  
〒606-0807 京都市左京区下鴨泉川町59 賀茂御祖神社内 ☎075-781-0010  
www.eonet.ne.jp/~tadasunomori-z

財団設立30周年記念号  
紘の森財団会報  
Vol.5

平成24年3月31日発行  
通号53号

紘の森



財団設立30周年記念誌上対談  
千玄室 × 新木直人

賀茂御祖神社宮司

紘の森NEWS／催事案内

# 千玄室

糺の森財団理事長

# 新木直人

賀茂御祖神社宮司

公益財団法人世界遺産賀茂御祖神社境内糺の森保存会（略称・糺の森財団）は発足三十周年を迎えました。財団法人糺の森顕彰会として設立され、この間、さまざまな学術調査に基づいた森の整備保全事業と文化財保存の助成を進め、また市民と森を守り親しむ多彩な普及広報活動を積み重ねてきました。節目の年を迎え千玄室理事長と新木直人賀茂御祖神社宮司が歩みを振り返る記念対談を行いました。  
（司会：進行は坂井輝久理事・学術顧問）

——三十年という活動の歴史を振り返って、まずどのような思い出や印象を持っておられますか。

新木 財団法人の設立は昭和五十七年三月十日でした。初代理事長は京都商工会議所の森下弘会頭になって

いただいたのですが、千さんには流石馬神事保存会の会長をしていただいておりますので副理事長になっていただきましたね。財団のおおもとは明治二十年代に生まれた下鴨神社神苑保存会という市民が中心の会



員制の組織でした。ところが戦後、糺の森が大変荒れてきました。戦時中、空き地という空き地に食糧増産のイモやカボチャが植えられ、糺の森の馬場も芝を剥ぎ取って畑になってしまい、戦後も続いていたので

す。私が下鴨神社に奉職するようになった昭和三十八年当時、下鴨神社神苑保存会は糺の森保勝会に変わっていて、会長は下鴨に撮影所があった縁から大映の永田雅一社長に務めていただいております。細々と森を守っていたのですが、守るより荒れ果てる方が激しかったのです。何とかして財界の方々や文化関係の方々に協力をいただきたいということで昭和三十九年、保勝会を顕彰会に変えました。さらに昭和五十七年に財団法人化し、千さんには二代目理事長の栗林四郎さんの後を受けて平成四年から理事長になっていただきましたね。

千 そうでしたね。私は下鴨神社から北にある京都府師範学校付属小学校に通ったのですが、五年生の時に糺の森に絵を描きに連れられて来ました。遊びに来たことはありません

が、野外教育で来たのは初めてで、さて何を描いたものかと思っすすと、先生が木の匂いを嗅ぎなさいというのです。大変印象深いことでした。家の人からも糺の森は大切なところだから減多なことをしてはいけないと教えられたものです。そういう思い出がありましたから、糺の森で催しがあったら何とか参加したいものだと思っております。戦後、糺の森の保存が叫ばれ、市民運動で保存しなければならぬということ、京都商工会議所会頭の森下弘さんが理事長になって財団法人の顕彰会ができ、副理事長の京都銀行の栗林四郎さんも知り合いましたから、森下さんから「手伝ってほしい」と言われ、私も副理事長になりました。流鏑馬神事保存会にも関わって子ども頃の頃は違う糺の魅力に心引かれました。文化財としても貴重であり、保存する必要がある

のではないかと考えました。特に環境問題が叫ばれるようになって強く感じるようになりました。新木さんが学者たちを集め、その英知でもって糺の森保存に尽くしてこれ、私

もそのお手伝いをしてきた次第です。糺の森は世界遺産になり、財団法人は公益法人の認可を受けました。素晴らしいことです。また学術的な調査を行い整備が随分と進んだことは財団法人の大きな成果だと思っています。

——確かに糺の森は樹林学術調査や奈良の小川・瀬見の小川発掘調査などがきちんと実施され、小川の復元や植樹・土壌改良の事業が進められ森が見違えるようになってきました。これはどういう構想だったのでしょうか。

新木 まず昔の糺の森はどうだったかを正確に調べておく必要があります。そこで発掘調査を行いました。その結果を受け五十年後、百年後の糺の森の姿を予測しながら、昔の糺の森に戻すことが森の景観を保存する根本になると考えたわけです。森の整備は発掘調査が終わった所から始めました。

千 もとのお社の森がどうなっていたかを調べる発掘調査というのは大変な事業でしたね。  
新木 第一期は平成二年から平成二

十年までかかりました。最初十年間の予定でしたが、次々遺跡が発見され、どんどん時代をさかのぼり石器時代まで行きつきました。石器時代は京都に都が遷される遙か昔。そのような時代の山城の姿が分りました。糺の森の歴史を知ることには京都の歴史を知ると同じになっているのです。

——学術調査には、どんな苦労がありましたでしょうか。  
新木 要は何も分からないことです。糺の森は神様の宿る神聖な森ですから手を付けてはいけないということ、まったく触ってこなかった森でした。

千 なるほど確かにそうです。  
新木 樹木もできるだけそのまま、土地もできるだけそのまま何百年もやってきました。しかし、将来どうなるのか不安が常にあります。以前は鬱蒼と茂っていた森が、昭和九年の室戸台風で大きな樹木が倒れました。それがきっかけで森を元に戻すには、どうしたらいいのかということが始まりました。どんな木を植えたらいのかということから始め

なければいけませんでした。そのためにも昔の森はどのような森だったのか調べたかったです。その結果、糺の森はニレ科の落葉樹が中心の森だったことや、山城原野にはあちこちに河川や沼沢があったことが分かりました。

——調査研究の成果は、毎年の市民植樹祭にもつながっていますね。

千 植樹祭は財団法人十周年の記念事業で始めたものでしたね。

新木 千さんが声を掛け働きかけていただいて実現したものです。

千 自然環境保護が叫ばれ関心が高

まっておりますが、糺の森はお社を中心とした京都市内に残った唯一の自然の森として、京都市民がもっと関心を持つべきだと思つたのです。何か神社の境内の一部としか見ていない。植物を観賞し樹木一本一本を大事にしてほしい。そのためにも植樹祭を催し、たとえ一本でも子ども木を大切に育てる気持ちになり、それがまた敬神につながります。口先で自然を大切にというより実践が大事です。植樹祭にもっと力を入れ、京都市内の小学校に呼びかけ当番校を

決め、例えば六年生に思い出の木を植えていただくことを頼みにいってほしいと思います。

新木 それはいいアイデアですね。

千 苗木は無料でもいいですが、子どもたちにお小遣いで一株千円でも自ら買っていただければ一層思い出に結びつくことになるのではないのでしょうか。今年からでも糺の森財団で取り組んでみてはどうでしょう。

新木 糺の森はかつて蜜の名所だったのでですが、植樹祭がきっかけとなり、蜜の名所を復興してどうかと

千さんにおっしゃっていただき、蜜火の茶会を催し市民に親しんでいただくということになりましたね。これも財団法人十周年記念で始まりました。

千 お陰で年毎に本当に参加者が多くなりました。蜜を見たこともない子どもたちも多かったのですが、たくさん蜜を放ち、雰囲気のある森で寸時でも自然とともに生きた蜜を鑑賞できて素晴らしいことです。

——蜜火の茶会を始めたころ、糺の森の小川はどんな状況だったのでしょうか。

に飲める催しが出来れば、生活文化と結びつけて意義あることでしよう。今はカエルの鳴き声さえ知らないうという人も多いようですし、「糺の森で自然と共に過ごさう」といふという催しがあるからです。糺の森の蜜は和歌や俳句にも詠まれています。昔は多く飛んで親しまれていたのに、戦後は荒れて棲めなくなりました。そこで蜜を復興して市民に公開した方がいいという発案が出てきたわけなのですが、そもそも糺の森は神社の森であると同時に、市民が寄り集まる森であったことがあります。やはり楽しみがなければいけませんね。

千 おっしゃる通りですね。強制的に神への信仰を押し付けるわけにはいきません。自然に信仰を抱いていただくには、森を通して敬虔な気持ちになつていただいて神様にお参りするということ自然な形が望ましい。そ



新木 実は蜜のために森の小川を整備しようということになったのです。蜜の幼虫は水生ですから、水と川が重要です。当時、水が流れている小川は泉川だけで、しかも家庭排水が流れ込み環境がよくありませんでした。蜜の名所を復活するには昔の小川の環境を取り戻さなければなりません。当時、細々と蜜が飛んでいましたが、飛んでいるのはゲンジボタルかヘイケボタルかも分からず、蜜の種類を調べ、かつてはどうだったのか調査しました。その結果、ゲンジボタルと分かり、幼虫は淡水生

巻貝類を食べて成長しますから、泉川に産卵する草や泥を整え、餌のカワナナだけは堺市の天神さんから三年間もらって環境を整えました。

千 そうでしたね。茶の湯は自然を尊ぶものです。茶の緑の色も自然を表していますから、私はお茶を点てるときも自然と一体になって点てています。千利休は「あるがままのように、自然というものをともに楽しむ」といっています。茶会は蜜だけが大切ということではありません。珍しい鳥も糺の森には棲んでいません。鳥を観察しながら、お茶が静か

千玄室 糺の森財団理事長

(裏千家前家元)



新木直人 賀茂御祖神社宮司



司会・進行 坂井輝久 理事・学術顧問





うした意味で糺の森はたくさんある神社の中でも自然と神様とが一体であり、いろいろ教えていただきませす。もっと市民の憩いの場となつたらいいですね。

——その点、糺の森財団の理念とどう関わってくるでしょうか。

千 糺の森財団は森と神社の文化財の保存を目的に公益財団法人の認可を受けて活動しておりますが、あまり堅苦しく公益財団法人だけが保存するという考え方はよくありません。広く市民みんなが素晴らしい世界遺産の糺の森を自分たちの宝物と

して守っていくというように考えていただきたいのです。京都府や京都市も堅苦しく規制する行政的な考え方はなく、フレキシブルに糺の森が使える形態に導いていく行政的な配慮が必要かと思ひます。

新木 確かに神社の森の保存が公益財団法人の目的となりうるのかということがあります。日本の財団法人の中で糺の森が初めての例です。そこには過去の歴史が関わっています。糺の森は単に神様だけの森ではない、府民・市民の憩いの森であるという公益性が認められ財団法人となつた経緯があります。都市の自然環境という面でも現在、京都市街にある森は京都御苑と糺の森ぐらしかありません。神様の森ではあるけれども都市の自然環境を保つ市民の森として、もっと市民に理解の輪を広めていかなければならないと考えています。

——さまざまな学術調査に加え、鴨社古絵図展とか糺の森フォーラムとか文化講演会とかいった文化的な事業にも随分力を入れてきましたね。

新木 鴨社古絵図展は昭和六十二年に参集殿などを会場に開きました。記念講演会を開き図録などの出版も行いました。糺の森の歴史ばかりでなく下鴨神社の歴史、さらに京都の歴史も理解していただきたいと思っています。これからもそうした面を力を注ぎたいですね。今年は鴨長明の『方丈記』完成八百年にあたり記念事業が始まっております。

千 新木宮司のご努力もあつて糺の森財団・下鴨神社崇敬会の関西・関東・東海各本部が設立され後援・支援がいただける広いネットワークが出来ています。いずれ九州にも本部を設けたいと思っています。糺の森と下鴨神社は世界遺産ですから、京都だけのものではないと広く支援していただけるのでしよう。幅広くフォーラムやシンポジウムから学びたいという機運が高まっているときに、そうした場を開くことは大切です。昨年の東日本大震災は大変な災害でしたが、日本は過去に何度も天災や人災に見舞われ、それでも立ち直ってきたのは、やはり神様、仏様のお陰だと思ひます。それは皆さん信じて疑わなひでしよう。今こそ神

徳をいただき認識を深め学び、信じていかなければならないと思ひます。いま信じてということが弱まっています。シンポジウムやフォーラムなどを開いて森の自然を通じ神徳を信じる場を設けることが大切です。それが精神的な支柱になるのだと思ひます。その意味でも糺の森という場は貴重で、大いに活用すべきであります。

新木 いま糺の森財団は文化講演会や音の森コンサートなどを定期的に開いています。これによって人々が森を訪れ風のそよぎや小川の流れに触れ心をしずめるきっかけになり、それが千理事長のおっしゃる信仰につながるのではないでしょうか。

——いま精神の荒廃が叫ばれたりしています。大袈裟に言えば、その立て直しの道筋をつけるようなことにつながりましようか。

千 そうした道筋をつくるのも糺の森財団の務めです。そのためにも入り口の一つではなく二つ三つとつくっておくことが大切です。糺の森財団が公益財団法人となり支援

千 確かにそうです。糺の森は随分整備され綺麗になりました。さらに整備を積み重ねていきたいものです。

新木 整備されて年間の参拝者が百五十万人を突破しました。何といても四季に移ろつていく糺の森の美しさを感じて、また来年の秋の紅葉に、また春の桜にと何度も訪れたいという人が増えているからだと思います。こういう雰囲気を保つていかなければなりません。森の自然の保存はもちろん大切だが、見て楽しむ森に整備することも大切です。表参道東側を中心とした第一期整備事業は終了しましたので、表参道の西側の河合神社から神宮寺跡の付近までの第二期整備を十年ほどかけて実施したく相談をお願いしているところで

千 第三十四回の式年遷宮も近づいてきましたし、式年遷宮と合わせて

整備を考へていきたいですね。

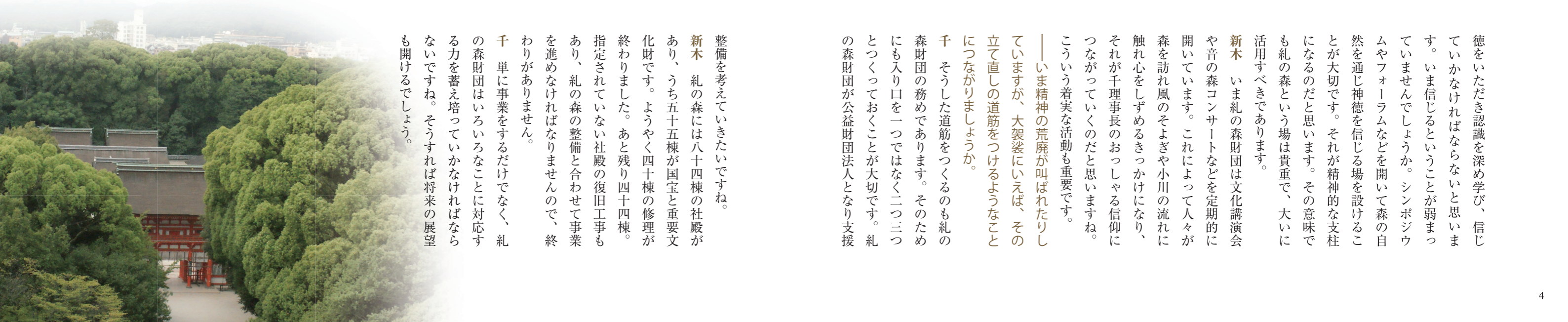
新木 糺の森には八十四棟の社殿があり、うち五十五棟が国宝と重要文化財です。ようやく四十棟の修理が終わりましました。あと残り四十四棟。指定されていない社殿の復旧工事もあり、糺の森の整備と合わせて事業を進めなければなりませんので、終わりがありません。

千 単に事業をするだけでなく、糺の森財団はいろいろなことに対応する力を蓄え培つていかなければならないですね。そうすれば将来の展望も開けるでしよう。

千 第三十四回の式年遷宮も近づいてきましたし、式年遷宮と合わせて

千 そのためにも十分な学術的な調査研究が必要ですが、学者先生にただお願いするだけでは進展しません。調査費が潤沢に使えるように、基金をつくり実施していただくことが重要ではないでしょうか。学術的な調査研究をおかないと活動が頓挫してしまひます。基金が出来るよう努力したいと思ひます。

新木 昨年、京都学問所を再興して今年の『方丈記』完成八百年記念行事から本格的な活動が始まひますが、目指すところは糺の森や下鴨神社に限定せず日本人が忘れかけてい



# 糺の森 NEWS

発行所 公益財団法人  
世界遺産賀茂御祖神社境内  
糺の森保存会事務局  
www.eonet.ne.jp/~tadsumonori-z

## 助成事業

糺の森財団は平成二十三年度に重要文化財の保存修理等の事業に助成いたしました。

### 重要文化財 言社七棟 保存修理事業 言社周辺整備工事

下鴨神社本殿前における七つの末社「言社」(重要文化財)。七つの名を持つ大國主命(おおくにぬしのみこと)が祀られる社で、十二支の守り神とされています。



現在の社殿は一間社流造り(いっけんしゃながれづくり)、椀皮葺(ひわだぶき)、十七世紀前半、江戸時代前期の寛永年間の建造であり、平成元年に屋根の葺き替えがなされてから約二〇年が経過し、屋根や木部の傷みが激しく、土台の歪みも著しい状態にあります。

社殿七社すべてを台車に乗せ作業場へ移動し、三ヶ月かけて全面的な修繕がなされ、秀麗な姿がよみがえりました。また、社殿周辺の石積を補修するなどの周辺環境整備も行われています。

糺の森財団助成金額：2,247,150円

### 重要文化財 三井神社拝殿 一棟 保存修理事業 三井神社周辺整備工事

昨年度から継続している三井神社拝殿一棟の修理工事が完了しました。

全体に東北方向に傾いているなどの重大な歪みがみられましたが、本工事により歪みを是正し、構造補強等がなされました。また、椀皮葺の葺替え、木部の修理、飾金具の補修も施工されました。

加えて、三井神社周辺の植栽工事、土塀の補修、拝殿南に拝所を設けるなどの整備工事が実施されています。

糺の森財団助成金額：2,312,337円

### 環境保全整備事業

年間一五〇万人を超える参拝者が糺の森には訪れます。その森の樹の中には、倒木寸前の樹木や枯れ枝落下寸前といった

危険な状態なものが多々あります。その様な参道付近の危険木の剪定工事等が実施されています。

また、参道に敷き均される白砂等の補充工事も行われました。

糺の森財団助成金額：1,327,192円

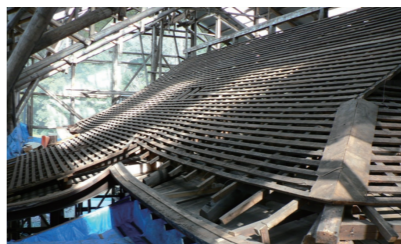
### 重要文化財 細殿 一棟 修理工事

孝明天皇賀茂行幸(ぎょうつう)のとき、十四代将軍徳川家茂(いえもち)の公の待所となつた「細殿」の修理が実施されています。

こちらも江戸時代前期に建てられたもので、内部の構造が二重格天井(にじゅうごうてんじょう)、外部の向拝付流造り(こうはいつきながれづくり)という建築学的に貴重な様式を今に伝えています。

現在、椀皮葺工事が施工され、今夏には修理が終了する予定です。

糺の森財団助成金額：2,475,000円



### 他の助成事業

- 輪橋修理工事  
……1,050,000円  
御手洗川に架かる輪橋の修理工事
- 葵の庭の整備工事  
……250,000円  
重要文化財大炊殿周辺の葵の庭整備工事
- 糺の森流鏝馬神事に関わる後継者育成事業  
……500,000円  
毎年5月3日に行われる、流鏝馬神事の実施と後継者育成事業
- 馬具修理事業  
……3,620,000円  
御蔭祭で使用され、室町前期に製作されたとされる神馬倭鞍(鞍橋、四保手、鏡力車、腹帯、鞍覆、鞍掛、鞍櫃)の修理
- 絵巻物修理事業  
……427,000円  
賀茂御祖神社の所蔵する「元三御棚神饌之絵図」「大宮河合社御内陣献備御粥并御菜絵図」「御蔭祭大宮河合社御蔭社献備神饌之図」の修理



## 糺の森コンサート 「音の森」開催

昨年の秋は3回、京都市立芸術大学の学生やOBの演奏で開催いたしました。9月は木管五



重奏で「ハイドン/ディベルテイメント」など、10月は金管五重奏で「ウエストサイドストーリー」など、そして12月は紅葉の中弦楽四重奏で「情熱大陸」などが演奏されました。近隣の皆様、旅行で参拝に来られた方など、多くの方が楽しんでいただけたものと思います。



## 糺の森 文化講演会開催

世界遺産糺の森の歴史・文化・自然を広く全国の方々に知っていただきたく実施しています「糺の森文化講演会」。秋と春に開催いたしました。

### 平成23年 秋講座

## 神さまの森、五感の森

平成23年12月3日に下鴨神社の研修道場において、エッセイストの麻生圭子さんを講師にお迎えして、「五感を使ってみませんか」というテーマで開催いたしました。数々のヒット曲の作詞をした後エッセイストとして執筆活動を行っている麻生さんが、その独特の感性と言葉のセンスで、京都として糺の森の魅力語り、講演のあと参加者と一緒に森へ出かけ散策。紅葉の森を五感を使って楽しむことができました。



### 平成24年 春講座

## 森はロマンの玉手箱

平成24年3月20日に下鴨神社の研修道場において、(財)京都市埋蔵文化財研究所調査課長の吉崎伸氏を講師にお迎えして「おもしろ考古学講座」を開催いたしました。長年平安京を中心とした京都市内遺跡の調査・研究を行ってこられた吉崎氏が、糺の森の地層や遺跡から見えてきた歴史・文化を興味深く語っていただきました。

## 第22回 螢火の茶会

月日 6月9日(土) 時間 午後5時～9時  
場所 下鴨神社楼門内

参加方法

- お茶席  
財団会員および招待者のみ参席。会員には案内の上事前申込要。当日財団入会者も参席可
- 螢鑑賞(境内)  
自由。7時半頃に御手洗池に放流。



下鴨神社とお茶は古くから関係が深く、境内には茶屋が開かれていました。また螢は絶滅寸前となっていました。森の中の川の整備を進めたことにより、再び昔のように螢が飛び交うようになり、平成3年に明治の納涼茶席を約100年ぶりに「螢火の茶会」として再開いたしました。

裏千家によるお茶席と御手洗池での螢の舞をお楽しみください。

同時開催

### 「糺の森納涼市」

時間 午後1時～9時 場所 楼門前  
明治時代の風情の納涼市。京菓子・京漬物・お酒など有名老舗約20店が出店します。お買物をお楽しみください。

## 「京都下鴨神社展」(仮称)

東海展覧会

日時 8月2日(木)～7日(火) 午前10時～午後6時  
場所 名鉄百貨店本館10階クローバーサロン(名古屋駅前)  
参加 無料(自由)

関西展覧会

日時 8月29日(水)～9月4日(火) 午前10時～午後6時  
場所 大丸百貨店心齋橋店北館14階イベントホール(大阪心齋橋)  
参加 無料(自由)



下鴨神社が所蔵する祭具や屏風、そして装束や資料など、門外不出の社宝を展示する特別展覧会です。普段ご覧いただくことのできない品々が展示されます。今年は名古屋と大阪で開催いたします。

この機会に是非ご覧ください。

## 第22回 糺の森市民植樹祭

月日 4月29日(日・祝) 時間 午前10時～12時  
場所 糺の森馬場特設会場



「糺の森」は縄文時代から生き続ける広さ3万6千坪の森で、古代山代の樹林を構成していた樹種がそのままに自生し、原生林の植生を伝える学術的、文化的に貴重な自然林です。この森を守るため、毎年「市民植樹祭」を実施し、多くの方々に植樹をしていただいております。是非お気軽にご参加ください。



苗木植樹

ムク・エノキ・カツラなどの苗木を植樹していただきます。子どもも大人もどなたでも参加OK。森の育成にご協力ください。

参加費 1,000円(1名) ※スコップ・花鉢付き  
申込 当日9時から会場にて

成木献木

子どもや孫の誕生、結婚30周年など記念に成木を植樹して、森に思い出を残してください。お問合わせ、お申込みは事務局まで。

献木代 100,000円(1本) ※枯れ保証付き  
申込 4月20日までにお願いします

## “春の”糺の森コンサート「音の森」



月日 4月29日(日・祝) / 5月26日(土) / 6月23日(土)  
時間 午後2時～3時(予定)  
場所 河合神社(糺の森南側)拜殿 参加 無料(自由)

京都市立芸術大学の音楽学部の皆さんをはじめとした方々が、クラシックを中心にお子様にも楽しめる曲なども交えて演奏いたします。春の一日、美しい調べをお楽しみください。

## 糺の森財団30周年記念 糺の森写生コンテスト(仮称)

次代を担う子どもたちが、都市にある貴重な森の素晴らしさを目で見て触って、そして絵に残すことにより、世界遺産「糺の森」を守り続ける大切さを実感し、そして行動を起こしていくことを願って実施します。

対象は小学生で、「糺の森にあるもの(風景・建物・動物など)」を写生した絵画を募集し、作品は展示・表彰します。

募集時期は7～8月で9月審査、10月表彰・展示の予定です。詳細が決まり次第、ホームページ等でご案内いたします。

## 糺の森文化講演会

平成24年度 夏講座

月日 8月中旬  
場所 下鴨神社 参加 無料

現在内容については検討中です。決定次第、ホームページやチラシ等でご案内いたします。もう少しお待ちください。